

享月 日 業斤 聞

今治のボランティア、仮設訪問

東日本大震災の被災地に、今治市内の主婦らでつくるボランティア団体「今治タオル体操愛好会」が昨秋に続き、再びタオル体操を通じて笑顔と元気を届ける。13日、四国タオル工業組合(同市)から、訪問先で配るタオル約2千枚が提供された。

タオル体操 宮城へ再び

東日本
大震災
2年

今回参加するのは渡辺小百合会長(48)ら愛好会のメンバーに加え、新規募集した高校生、短大生、主婦、会社員ら17〜70歳の男女計19人。人数は昨年9月の初の被災地ボランティアから倍増した。前回、被災者から「元気をもらった」「また来て」と好評だったため、再訪を決めたという。

16日に今治をバスで出発、車中泊して翌朝に宮城県入り。17、18日は女川町や石巻市の仮設住宅5カ所(計2337世帯)を、19日は東松島市と名取市

の保育園をそれぞれ訪ね、今治産タオルを使った体操を指導したり、歌や手品などのレクリエーションを楽しんだりする。シバザクラ植栽の活動支援もする予定だ。

出発を前に、四国タオル工業組合の平尾浩一郎理事長(61)は13日、組合員企業9社提供の支援タオル計2322枚を愛好会の渡辺会長に贈呈した。また同組合は15日、200万円の被災地義援金を日本赤十字社県支部を通して被災地に寄付する。

組合、2322枚寄贈

支援タオルの一部を平尾浩一郎理事長(右)から受け取る渡辺小百合会長。今治市東門町5丁目



平尾理事長は「以前からの『何かお役に立ちたい』という気持ちで多くの組合員から支援タオルが寄せられた。復興が進むことを願い、今後も支援していきたい」。渡辺会長は「被災地の人々から『忘れないで』の声を数多く聞いた。今治タオル体操で被災地に笑顔と元気を届け、今治に戻ったら現地の実情を伝えたい」と話した。

(寺門充)

2013年(平成25年)3月14日 木曜日

愛媛新聞

タオル体操被災地へ

今治の 四国工組が2300枚寄付 愛好会

四国タオル工業組合 理事長が「被災者の日常生活に役立ててほしい」とタオルを手渡した。渡辺会長は「タオル体操を通じて元気を届けたい。被災地の現状や住民の要望を聞き取り、今治に帰って身近な人に伝えたい」と語った。

タオルは同会メンバーらが一枚一枚丁寧に折りたたみ、ゆるキャラが描かれたビニール袋に詰めていった。



被災者に贈るタオルを丁寧に折りたたむ
タオル体操愛好会のメンバーら

ラ・バリイさんの絵などが描かれたビニール袋に詰めていった。
(白川亜子)

愛好会のボランティア活動は2012年9月に続き2回目。NPO法人今治NPOサポートセンターなどが企画し、同会メンバーや市民有志19人が宮城県女川町などの仮設住宅約240世帯、保育所2カ所での交流活動やシバザクラ植栽に取り組む。趣旨に賛同したタオル組合加盟9社がフェースタオルやタオルマフラーを寄せた。

13日は今治市東門町5丁目の組合事務所で開催式があり、平尾理